

全校道徳指導案

日 時 平成21年3月17日(火) 5校時

場 所 図書室

授業者 小野寺 哲浩

1 はじめに

世界には水不足の状態にある国があることは誰もがわかっている。水は人類にとって欠かすことができない資源であり、生活の源である。日常生活の中で当たり前のように使っている水資源が世界の国々ではどのような状況にあるのか、水不足の地域に住む子どもたちがどんな生活を強いられているのか、しっかりと理解させたい。また、水資源の活用は、水不足の国・地域の問題だけではない。バーチャル・ウォーター（仮想水）を考えた場合、日本は世界標準の3倍もの水を消費している。「食料を粗末にすること＝水の無駄遣い」なのである。国内自給率37%の日本にとってすべての資源を無駄にはできない。

「一生懸命生きることこそが、最大のボランティア」

水資源に関する問題を正面からとらえ、エコライフを実行している人こそが、水不足に喘ぐ人々の苦しみや悲しみを理解できる。

「水＝財産」

水は食糧生産にも鉄鋼生産にも使われる。従事する人も水を消費し、第1～3次産業の全てで水は消費される。

解説：バーチャル・ウォーター（仮想水）

農産物の生産や製品の製造、輸出入することは、その際に必要となる水（仮想水）を、購入者が間接的に消費したことになる。たとえば、輸出国では栽培のために水が消費されており、それを仮に国内で栽培しようとする多くの水、すなわち仮想水が必要となる。日本は多くの農産物を輸入しているが、輸入するということは、船舶等の材料、燃料が消費され、人が使う水を含めると、食糧自給率が低い国ほど水消費量は高くなる。

牛肉70gを得るのに、1400ℓが必要。どんぶり一杯のご飯を炊きあげるのに、600ℓが必要。

2 本時の目標 水資源の現状理解と資源保護・活用の行動化

- 低学年 『水がなくて困っている人がいるんだ』と実感し、自分ができること考える。
中学年 水不足地域の生活を知り、自分や自分が所属する社会のより良い在り方を考える。自分にできること、自分の家族ができることを行動化する。
高学年 世界の現状を知り、水資源から他の資源の保護・活用も考える。
資源保護・有効活用の意味を理解し地球規模の行動化を実践できる。

3 展開 筆記用具、『水のクイズ』持参

*事前～前日に『水のクイズ』配布・宿題として家族と相談しながら記入してくる。

段 階	形態	活 動
ひろげる	全体	本時の説明 水資源について 班活動の説明
とらえる	全体	① クイズの解答 1, 2, 3の解答と説明 「地球上で人間が使える水」→班まとめ
	班 全体	*DVD視聴 6分間『懸命に生きる子どもたち～池間哲郎氏講演より～』 4, 5の解答と説明
	班	② 「どのように水を使えば良いのか」→班のまとめ
まとめる	全体	「どのように水を使えばいいでしょうか？」 「これから調べてみたいことは？」 各班より発表
	個	授業アンケート記入

*事後～各クラス

- ① 事前事後指導として、担任より発達段階に応じて学級で道徳的価値を深める。
- ② 児童の感想等について掲示し、全校で読み深める *教頭集約→掲示